

わたしの好きなもの

「わたしの・好きな・もの」とは、私を育み、励まし、守ってくれたもの。生物学者の福岡伸一氏の言葉です。福岡氏の著書「わたしの好きなもの」の「あとがき」から一部を抜粋し、紹介します。

子供の頃に好きだったもの。夢中になったもの。大切な友だち。

大人になって体験し、感動したこと。旅の思い出。新しい出会い。未知なるものへの好奇心。

人生を振り返れば、歳月を彩ってきたものの多さに驚く。誰もが子供だった頃、無邪気に、気の向くままに、興味の対象へまっしぐらだったはず。それがいつの間にか、社会という四角い箱の中でシャッフルされて、好きなものがわからなくなってしまった人は多い。「あなたの好きなものは何ですか?」と聞かれて、すぐに答えられる人と、そうでない人がいる。答えられない人も、好きなものがないわけではない。ただはつきりと、それを「好き」と言えないだけなのだ。「身近な常識」に当てはめて、恥ずかしさや、後ろめたさが「好き」と言わせないだけで。けれど、福岡さんの言葉を借りれば、すぐに「好き」を思い出せるかもしれないし、好きなものはつきり「好き」と言えると思います。

「わたしの・好きな・もの」とは、私を育み、励まし、守ってくれたもの。

これまでの人生で、自分を育み、励まし、守ってくれたものとは何でしょう。それは、家族、友達、音楽を聞くこと、楽器を演奏すること、歌うこと、踊ること、本を読むこと、日記をつけること、詩を書くこと、絵を描くこと、昆虫採取、物づくり、料理、片付け、花を育てる、植物鑑賞、映画鑑賞、人のお手伝い、勉強、運動などなど。ものであれ、人であれ、今の自分があるのは、「わたしを育み、励まし、守ってくれたもの」のおかげ。それはすべて、「わたしの好きなもの」と思って間違いません。「人を大切に・時を大切に・物を大切に」。まさに桂川中学校の学校教育目標と同じです。12月は人権月間。私を育み、励まし、守ってくれるすべてに感謝し、自分や周りの存在（人・時・物）を見つめ直してみる機会にしてください。



伝統文化体験（いけばな）

11月29日、2年生を対象に伝統文化体験（華道教室）を実施しました。「未生流」京都支部長、北尾登志甫様はじめ6名の皆様を講師としてお招きし、ご指導いただきました。「花器の直径の2倍と花器の高さを加えた長さを『体』としていける・・・」との説明や剪定鉢の扱いにも戸惑いはありましたが、席をまわり、一人ひとりに丁寧助言していただき、素敵な「いけばな」が完成しました。持ち帰った花は、ご家庭に彩を与えているのではないかでしょうか。日本の伝統文化である「いけばな」を身近に感じてくれたと思います。今、花屋さんの前には、クリスマスや迎春に合わせた花々が並んでいます。また冬を越し、春へ向かっていくと様々な花が店頭に並びだします。四季を感じながら誰かのために花をいける、そんな時間もいいものです。花は見る人を元気にしてくれます。

